

埋め立てられた江戸を見ます

徳川家康の江戸入城は1590年（天正18年）です。

家康は江戸の地勢を改造します。この改造は三代将軍家光の時代まで続きます。

それでは家康が江戸城に入城した時の江戸の地勢はどのようなものだったのかを見てみましょう。

○江戸は関東平野の南部の中央、江戸湾（東京湾）の入江（日比谷）に面した位置にありました。

○武蔵国豊島郡江戸郷と呼ばれていました。

○江戸城が拠点です。江戸城を中心に見ます。

○江戸城の真っ直ぐ東へは、隅田川の河口です。隅田川を越えますと下総国に入ります。更に東には中川、次に江戸川となります。

三つの河川は江戸湾（東京湾）に流れ込みます

○西は内藤新宿（現新宿）更に多摩川方面ですが、多摩川の東側は武蔵野台地（ほぼ東京都区内）と呼ばれます。多摩川の西側は多摩丘陵です。

○北は神田山（本郷台、現駿河台）、王子（現北区）、埼玉方面につながります。

○南は江戸湾につながる日比谷入江です。海岸線の南方向に品川、多摩川があります。日比谷入江の東側に江戸前島（半島、洲崎）更に東側は隅田川が流れ込む江戸湊

江戸時代の江戸の範囲は四里四方と言われていました。東西16キロメートル、南北14キロメートル位でしょう。

家康が江戸城に入城したころの江戸は今の東京都豊島区から文京区、台東区、千代田区、中央区の海岸の辺りまでで、江戸幕府の御府内（江戸）より狭い範囲です。

当初は隅田川の西側までが江戸でした。隅田川の東の葛西（下総国葛西郡の一部）が江戸に組み込まれたのは家康が江戸に入った後です。（1686年）

家康は隅田川に直ぐに橋を架けました。両国橋です。この両国の意味は武蔵国と対岸の下総国の両国にまたがることから名づけられたのです。

江戸の地勢を知って頂くために更に説明します（別紙武蔵野台地略図を参照ください）。

江戸は多摩川の東に位置する武蔵野台地にあり、この台地を構成する山の手台地（現在の山手線の中）と同台地の東側の坂下から隅田川周辺までの低地の地域であるとも表現できます。

武蔵野台地は平らな一面ではありません。北から上野台（通称上野の山）、本郷台（通称神田山）、淀橋台（通称紅葉山（江戸城）・愛宕山・八つ山あり）、目黒台、荏原台、そして久が原台から構成され、それぞれの台と台との間は低地です。現在、神田山は駿河台上、上野の山は上野公園と呼ばれます。

低地は標高3メートル位までで、又台地上にある山と言っても20～25メートル位までです。まあ丘みたいなものですが、江戸の人は山と称しました。今でもそう呼びます。

さて家康から三代家光時代にわたって行われた江戸の地勢の改造、土地の造成についてです。

江戸城前の海（江戸湾）の埋め立てについて語ります。

家康は江戸城に入城して、江戸城の建増築はもちろんですが、侍と町人の居住地域の大整備（造成）を行います。

現在、東京港と言われている海と陸側の地形は家康が大改造を行いました。江戸城の前の海岸線を変えたのです（家康江戸入府頃の江戸略図を参照願います）。

家康が江戸城に入城した時の海岸線は入江が大きく二つありました。

南側に日比谷入江が江戸城の近くまで食い込んでいました。日比谷入江には平川が流れ込んでいました。入江の東側は半島（洲崎）の江戸前島が突き出ていました（外島とか豊島洲崎とも呼ばれていました）。この江戸前島の東側は江戸湊と呼ばれていましたもう一つの入江です。この入江には石神井川と隅田川が流れこんでいました。

家康はこの日比谷入江の全部と江戸前島の東側海岸を埋め立てました（別紙埋め立てられた江戸の略図を参照願います）。

日比谷入江は現在の日比谷のイメージで良いのですが、もう少し具体的に言いますと、入江の入り口は新橋から愛宕山の下辺りで、広い所で幅1000メートル位、奥行きは江戸城の本丸の大手門あたり迄で2300メートル位です。江戸城の東から南にかけて、東京駅の丸の内側のほとんどが入江（海）だったのです。

日比谷入江に流れこんでいた平川は埋め立てに邪魔なため、これを付け替えて新しく作った神田川に流しました。神田川は隅田川に流れ込むようにしました。そして神田の山（現在の駿河台）を切り崩して、その土で日比谷入江埋め立てました。

更に江戸湾に突き出た前島（半島）の東側が埋め立てられました。具体的にはどこかと言いますと、前島は八重洲、日本橋、京橋と日本橋の一部辺りです。

よって今日の八丁堀、新川、霊岸島、築地は当時埋め立てられた土地です。ただ前島の八重洲も京橋も砂州で、満ち潮の時は波に洗われるような土地だったとも言われていますので、住居使用のためには土盛りは必要であったと思われます。

この埋め立て地域は現在で言いますと千代田区の皇居の東の丸の内、南の日比谷、港区の新橋、中央区の東側の地域です。

東京にお住まいでない方は上記地名の位置が分かりづらいと思いますが、要するに江戸城（現皇居）の内堀から海に向かって2キロメートル、幅2キロメートル位の埋め立て工事です。

当時としては規模の大きな工事と言えます。しかしそんなに難しい工事ではありません。江戸城の前の海は遠浅で潮の干満が大きいのです。潮が引いた時には陸になりますので、引いた所に矢板で囲い込みます。潮が満ちて来るまでに行いす。そうすれば満ちて来ても矢板の内側には海水が戻りません。そこに神田山（駿河台）を切り崩した土で埋めるのです。神田から埋立地まで2キロメートル位の下り坂で、運搬は楽です。

これを繰り返す工事ですので難工事ではありません。1620年頃にほとんど埋め立て工事は終わりました。埋め立て地の南にあります浜離宮は後年の1660年位に出来ました。

この埋立地又は改造された造成地は、江戸城から：現八重洲（現東京駅の海側）までは武家地それから京橋、築地辺りは町人地、更に海側の八丁堀は武家地、公用地としました。

八丁堀には船着き場を作り、当初は江戸城建設のための石材の運び込みに使用されました。

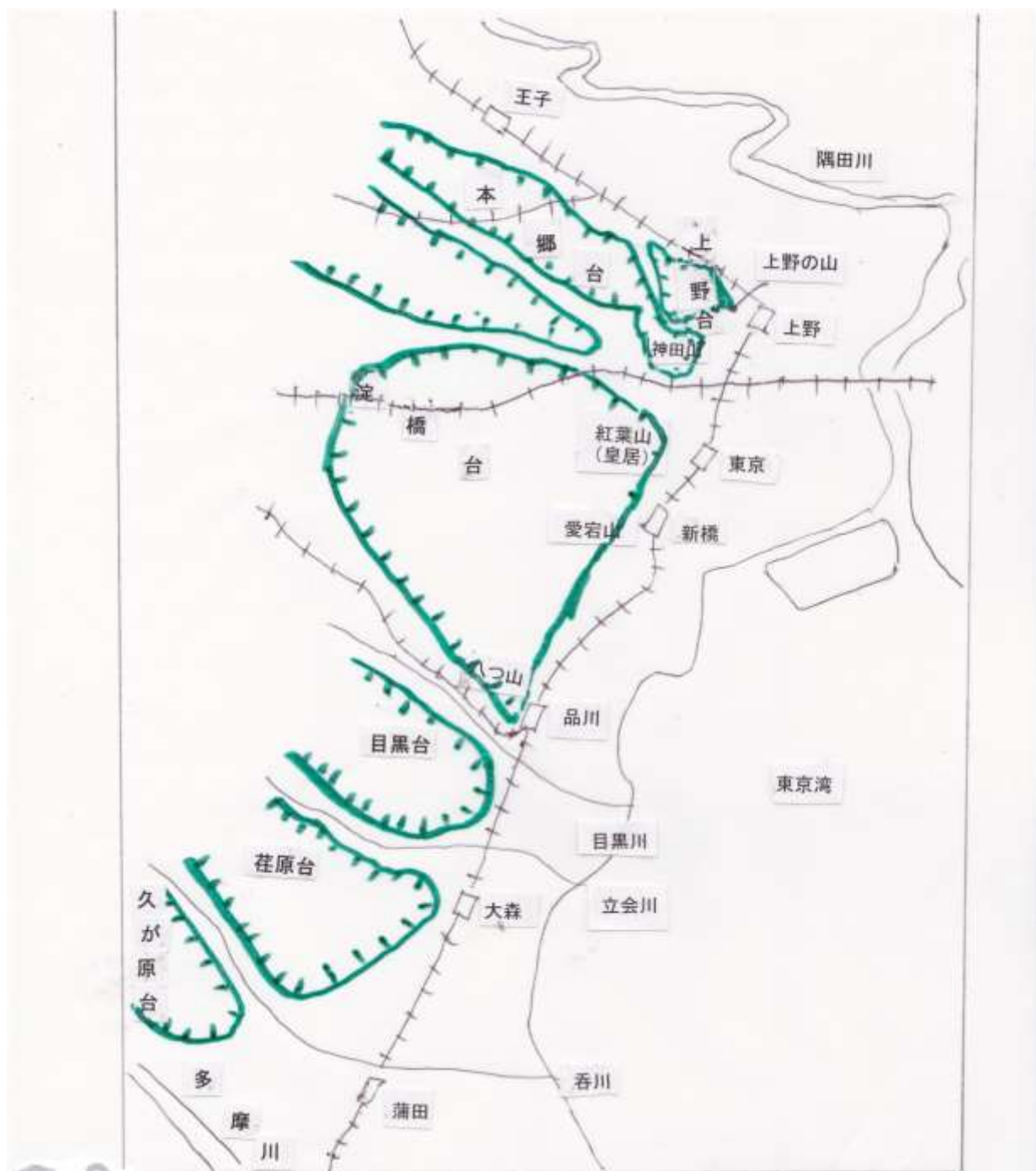
埋立地は物資運搬用の運河が造られました。掘って作ったわけではありません。埋め立てる時に運河部分を残して整備したのです。

この大工事の延長が明治に入って更に進め、八丁堀、築地、鉄砲図の先の海が埋め立てられ、月島、豊洲、有明、南に向かって芝浦、大井等が出来、今日の東京の土地と海があります。

以上

2015年4月4日

梅 一声



武 蔵 野 台 地

-  台
-  海岸線・川
-  JR

家康 江戸入府頃の江戸と河川付替え工事



- 当初の海岸線と河川
 その後の人工河川
- 平川 当初 A-A1-A2
 付替え1 A-A1-A3-A4
 (人工河川部分)
 付替え2 A-B-C-D
 (神田川=人工河川) A-A1は止める
- 石神井川 当初 C-C1
 付替え C-D
- 小石川 当初 B-A1-A2
 付替え B-C-D
- 神田川 平川上流と人口の河川A-B-C-D

埋め立てられた江戸

